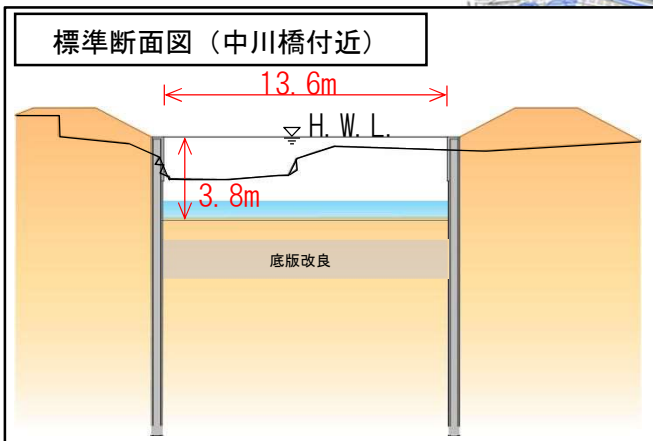


再 評 価 項 目 調 書

再評価実施要件		○ 事業採択後 ( 年 ) ● 再評価後 ( 5 年 ) ○ その他 ( )					
1 事 業 概 要	事業名	なかがわ 中川 広域河川改修事業					
	事業場所	なかの がいさく 宇部市中野開作 地内					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《 前回評価 平成 28 年 時 》 平成 24 年度 ~ 令和 23 年度 《 令和 23 年度 》 ( 西暦 2012 年度 ~ 西暦 2041 年度 《 西暦 2041 年度 》 )					
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 7,951 百万円 》 7,951 百万円 ( 855 百万円 )	既投資額 (内用地補償費)	2,870 百万円 ( 203 百万円 )	進捗率 (用地補償費)	36 % ( 24 % )	
	事業目的	中川は、宇部市 <sup>たない</sup> 棚井地区の西側の丘陵地を源とし、 <sup>こようがわ</sup> 厚東川右岸背後地に広がる干拓地や市街地を貫流し、厚東川の一次支川である梅田川に合流する、流域面積13.5km <sup>2</sup> 、流路延長4.6kmの二級河川である。流域には公共施設や家屋等が多数立地しており、JR宇部線や国道190号、県道琴芝際波線等の主要な交通網も整備されている。 本事業区間は、洪水に対する安全度が低く、平成5年7月の梅雨前線や平成8年8月の台風21号による豪雨で浸水被害が起きていることから、河川改修を実施し浸水被害の軽減を図る。					
	事業内容	中川排水機場 (排水ポンプの増設) 中川 L=1,040m (河道掘削工、護岸工、築堤工、橋梁工)  洪水対策の整備規模 年超過確率 1/10					
事業効果	年超過確率1/10の洪水時における浸水被害防止効果 浸水面積 44 ha → 0 ha 被害額 2,785 百万円 → 0 百万円  平成8年8月豪雨による洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 182 戸 → 0 戸 浸水面積 92.2 ha → 0 ha						
2 再 評 価 の 視 点	(1) 社会経済情勢の変化	<p>前回評価から人口・世帯数が増加しているほか、引き続き宅地化が進んでいることなどを踏まえると、治水対策の必要性は依然として高い。</p> <p>【状況変化(国勢調査)】 《中野開作地区ほか》 ○人口 : 1.16倍 (15,462/13,280人) &lt;H27/H22&gt; ○世帯数 : 1.17倍 (6,245/5,339世帯) &lt;H27/H22&gt;</p> <p>《参考:県全体》 ○人口 : 0.97倍 (1,405/1,451千人) &lt;H27/H22&gt; ○世帯数 : 1.00倍 (597/596千世帯) &lt;H27/H22&gt;</p>				中項目 評価	大項目 評価
	関係市町及び地元の意向	<p>当該事業は、自治会、水利権者等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されている。また、これまでの浸水被害の経験から、地元自治体である宇部市や地元住民からの被害軽減に対する要望は強い。</p>				中項目 評価	

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	(単位：百万円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年：H28)</th> <th colspan="2">今回(再々評価) (基準年：R3)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>4,828</td> <td>9,883</td> <td>7,396</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>31</td> <td>41</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>8,178</td> <td>10,084</td> <td>7,547</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>1,276</td> <td>3,541</td> <td>2,659</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>14,313</td> <td>23,547</td> <td>17,631</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>5,766</td> <td>6,732</td> <td>3,089</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>671</td> <td>752</td> <td>672</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>6,437</td> <td>7,485</td> <td>3,761</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比(B/C)</td> <td>2.2</td> <td>3.1</td> <td>4.7</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区分	主な項目	前回 (基準年：H28)	今回(再々評価) (基準年：R3)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	4,828	9,883	7,396		②農作物被害軽減便益	31	41	30		③公共土木施設等被害軽減便益	8,178	10,084	7,547		④その他の便益	1,276	3,541	2,659		総便益	14,313	23,547	17,631		費用 (C)	①事業費	5,766	6,732	3,089		②維持管理費	671	752	672		総費用	6,437	7,485	3,761		費用便益比(B/C)		2.2	3.1	4.7		大項目 評価 A ・ B ・ C
	区分	主な項目	前回 (基準年：H28)	今回(再々評価) (基準年：R3)				備考																																																							
			全体事業	全体事業	残事業																																																										
	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	4,828	9,883	7,396																																																										
②農作物被害軽減便益		31	41	30																																																											
③公共土木施設等被害軽減便益		8,178	10,084	7,547																																																											
④その他の便益		1,276	3,541	2,659																																																											
総便益		14,313	23,547	17,631																																																											
費用 (C)	①事業費	5,766	6,732	3,089																																																											
	②維持管理費	671	752	672																																																											
	総費用	6,437	7,485	3,761																																																											
費用便益比(B/C)		2.2	3.1	4.7																																																											
※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額  【費用対効果分析手法】 ○根拠マニュアル 治水経済調査マニュアル(案) 令和2年4月 国土交通省水管理・国土保全局 ○各便益の説明 ①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額 ②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額 ③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額 ④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用			大項目 評価 A ・ B ・ C																																																												
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	これまでの事業で、 <sup>なかがわはすいきじょう</sup> 中川排水機場の排水ポンプの増設や <sup>なかがわし</sup> 中川橋の架け替え等が完了し、洪水に対する防護機能が向上している。 今後も計画的な事業進捗が見込まれることから、河道掘削工や護岸工等を引き続き実施し、浸水被害の軽減に努める。	大項目 評価 A ・ B ・ C																																																												
(4) コスト削減の可能性	コスト削減	発生土砂の処分にあたり、周辺の公共事業と調整して可能な限り流用することによりコスト削減を図る。	<table border="1"> <tr> <td>中項目 評価</td> <td>大項目 評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>A</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	A																																																								
中項目 評価	大項目 評価																																																														
a b	A																																																														
(4) コスト削減の可能性	代替案	「放水路案」などが考えられるが、経済性等の観点から、現計画の「河川改修案」が妥当である。	<table border="1"> <tr> <td>中項目 評価</td> <td>大項目 評価</td> </tr> <tr> <td>a b</td> <td>B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	B ・ C																																																								
中項目 評価	大項目 評価																																																														
a b	B ・ C																																																														
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低騒音・低振動の建設機械を使用する。</li> <li>・河川内工事の際に汚濁防止膜等を設置する。</li> <li>・部分的に寄せ石を配置することにより、動植物の生息・生育環境に配慮する。</li> </ul>																																																													
4 対応方針	総合評価	● 継続      ○ 見直し継続      ○ 中止																																																													
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																													
	備考																																																														

なかがわ  
**中川 広域河川改修事業**



この地図は、国土地理院の地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。